

東海市立船島小学校 住 所 東海市富木島町船島1の1 電話番号 052-604-3536 児童/生徒 331名 校長名 石原 和彦 ｸﾗｽ14学級(内 特支2)		○教育目標 ○輝く学校づくり ○地域の特色	・心や体をきたえ、たくましく生きる子どもの育成 ・人とふれ合い 自然とふれ合い 豊かな心を養おう ・古くからある姫島地区と、比較的新しい伏見地区に中央町の一部、上瀬木、東広、藤島などの団地がある。コミュニティ活動もさかんで、地域の結びつきは比較的強い。
--	--	-----------------------------	--

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目)	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】平成28年3月2日	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
知 進んで学ぶ	「分かる授業」「楽しい授業」を目指し、「『めあてと振り返り』」を大切にしながら児童の学びの意欲を向上させる。	学校評価アンケート 児童18 内容が分かる, 19 楽しい, 20 先生は熱心に教えてくれる	(評価B) 「内容がわかる」の肯定的な回答は、昨年度からわずかに1.4%の減少だが、「楽しい」については、12.2%の減少であった。「先生は熱心に」は2.7%増だった。学力向上をねらい、繰り返し学習が増えたことが一因かもしれない	教師アンケート「楽しい授業をしている」77.8%と、教師サイドも授業づくりに自信が感じられない。やはり現職教育を充実させ、楽しくわかる授業を実践できる力量を高める。	・若い先生が増えたので、先輩の良いところを取り入れて、自信をもって指導してほしい。熱血さも大切である。 ・学校公開日だからといってよそいきの授業ではなく、普段の指導ができる、表裏のない先生がいてよい。	・教務主任、現職主任を中心に、現職教育の充実をはかり、楽しくわかる授業を追究する。 ・校長の指導の下、“凡事徹底・学力向上”を全職員が意識して取り組めるようにする。
	問題解決に努力する	学習規律を定着させ、集中して学習に取り組ませ、基礎基本の定着、学力向上につなげる。(凡事徹底、学力向上)	(評価A) 学習規律に関するアンケート結果は昨年度に比べわずかな減少だった。凡事徹底が定着していると考えられる。ただ、「よくあてはまる」とした割合が減少している点は反省点である。	生活調べなどを通して児童の意識も高まっているが、マンネリ感を打開する必要がある。現在は教師側からの指導の色が濃い、児童自らが意識して取り組めるようにしたい。	・落ち着いたない児童は若干見られるものの、全体的には、しっかりと話を聞く姿勢ができています。 ・行事への参加の様子もよく、凡事徹底がしっかりとできています。	・学習規律の振り返りアンケートを継続して行い、児童の意識化をはかる。 ・長期休業明けの課題テストを継続し、結果を分析、補充することで基礎基本の定着をはかる。また、NRT,CRTテストの結果を活用する。
徳 あいさつ	異学年交流を進め、相手の立場を思いやり、お互いの言動を尊重しあえる心を育てる。	学校行事や、ふれあいグループでの活動の様子、子どもたちの反省をとらえ、心の育ちを確かめる。	(評価A) 七夕集会や運動会、学習発表会など、互いを認め合う様子が本年度も多く見られた。高学年、特に6年生のリーダーにとっては、成長のきっかけとなるふれあいグループ活動になっている。	今年度も6年生の意識が高かった。ふれあいグループの活動の中で、上級生を見て、育つ部分も多い。継続して取り組んでいきたい。	・新しく班長やリーダーを引き受けた子は、うれしさを感じ、高学年としての自覚にもつながっている。継続して取り組んでほしい。	・ふれあいグループの活動を継続、充実させる。 ・高学年のリーダー指導を充実させる。 ・今年度の朝会前の生活指導主任からの話を継続し、機会をとらえた指導講話を行い。心の育ちを促す。
	思いやり	道徳教育など様々な機会を捉え、心のつながりを大切に、温かい人間関係の確立をはかる。	(評価B) アンケートの結果は昨年度より「よくあてはまる」の割合が減少している。特に「いじめは見られない」は、32.6%の児童がそう思わないとしているので留意の必要がる。そうじやあいさつは、アンケート結果ほどできていないわけではない。	いじめは見られないが、子ども同士の小さな争いがないわけではない。これがアンケートの結果にもつながっている。常に児童の様子に気を配り、職員間の情報交換を密にして、多面的に子どもたちを見守っていく。	・やられている方がいじめと感じればそれはいじめなので、子どもたちの様子をしっかりとらえ、早めの対応が大切である。 ・あいさつは、一対一の時はできるが、複数になるとできないので改善したい。 ・感謝の気持ちを態度に表せる子どもにしていきたい。	・生活指導主任を中心に児童の様子を捉え、職員間で情報を共有して、いじめ等の未然防止に努める。 ・黙々清掃や係活動など、やるべきことがしっかりできるように指導し、できた時には、ほめて伸ばす場とする。
体 生活習慣の確立	「早寝・早起き・朝ごはん」「歯磨き」「排便」の習慣化に努め、健康な生活が送れるようにする。	学期ごとに「せいかつ調べ」を行い、生活習慣が確立されているかどうかを分析する。	(評価B) 「せいかつ調べ」の結果、朝ご飯についてはほとんどの児童が毎日食べているが、排便と早寝早起きは改善は見られたがまだ、課題が残る結果となった。	生活習慣についてはやはり家庭の教育力が大きく影響する。家庭への情報提供をさらに充実させ、働きかけを強化する。	・生活習慣についての指導は継続していくことが大切である。 ・保護者への呼びかけや、意識改革を粘り強く行ってほしい。	・養護教諭を中心に、引き続き「せいかつ調べ」を継続して、意識を高める。 ・学校保健委員会への保護者の参加を増やす。 ・保健便りなどで保護者へ情報提供する。
	進んで体力づくり	運動量の確保に努め、健康で力強い体づくりにつなげる。	(評価B) 期間を設定し縄跳びやマラソンを行う機会を設け、どの子も意欲的に取り組むことができた。縄跳びチャレンジも学級が結束して取り組めた。	縄跳びもマラソンも子どもたちが興味をもって取り組める工夫を進める。また、新しい取り組みにもトライする。	・継続して取り組んでもらうとともに先生も一緒になって取り組めると、子どもたちも頑張ることができるのではないかと。	・体育主任が中心となり、保健指導部で検討し、体力づくりの活動がマンネリ化しないように工夫していく。 ・児童のがんばりを認める場を設定する。
地域連携 誇ってもらえる学校	学校支援ボランティアを軸に地域連携を深める。また、フナビオ会の活動を活性化し、地域に根ざした学校づくりを進める。そのために効果的は情報発信に努める。	学校評価アンケート(地域) 学校支援ボランティアの活動状況、月に一度のフナビオ会への参加人数から評価する	(評価A) アンケートの結果、よい学校と思う86.9%と昨年度より向上している。学校支援活動も定着してきている。フナビオ会に参加した子どもの数は、現在まで延べ79名で昨年度並みの人数になっている。	昨年度に引き続き、フナビオ会では参加募集、活動内容を情報発信することで活性化が図られた。他の学校支援についても定着してきているのでさらに学校に来ていただける機会を工夫して設定していく。	・学校便り「希望の虹」で学校の様子がよくわかる。 ・ボランティア活動の人材を広げたい。 ・読み聞かせボランティアは、実際の様子を見る機会があると参加もしやすい。(懇談会の際にVTRで見せるなど)	・校務主任を中心に、教頭も窓口となり学校支援ボランティアを活性化し、地域に開かれた学校にしていく。 ・ボランティアコーディネーターが効果的に活動できるよう支援する。 ・情報発信を効果的に行い、地域連携がさらに深まるようにする。